いわき市立大野中学校
学校だより 第１１号

令和２年１月１７日（金）
発行責任者：校長　田中　淳一
TEL：０２４６－３３－２２３３

教育目標：*自立と貢献（稼げる大人，リーダーシップのとれる大人になる）*
育成したい力：自己マネジメント力　　協働する力　　探究する力

ファイナンス・パーク

１２月１３日（金），本市の経済教育プログラム「ファイナンス・パーク」（ＦＰ）を体験施設エリムで実施しました。対象は２年生です。３名の保護者の皆さんにも，ボランティアとしてご協力いただきました。

ＦＰは，公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本の提供する経済教育プログラムです。ＦＰは，税金，保険，食費，光熱費など生活に必要な費用の試算，様々な商品やサービスの購入・契約などを体験し，実社会にあふれる情報を適切に活用する力や，自らの生き方につながる生活設計能力などを育成することをねらいとしています。

生徒たちは８時間の事前学習を終えて，当日の体験活動を迎えました。当日は各自に与えられた年収や家族構成に基づき，赤字にならないような１か月の生活費計画を立てました。生徒たちは，税金を納めた後に手元に残る所得をどのような優先順位で支出したらいいか，電卓を片手に真剣に決めていました。

ＦＰを通して生徒たちは，限られた所得の中でどのように家族を養い，豊かで充実した暮らしをしていくかを経済的な視点から学びました。また，生活費計画を立てるには必ず犠牲にするもの（オポチュニティ・コスト）があるという大切な概念を学びました。普段とは違った頭の使い方をしたので「疲れた」という声も聞かれましたが，生徒たちの表情からは達成感がうかがえました。

放射線教育

１２月９日（月），医療創生大学の石川哲夫先生を講師に招き，全校生を対象に放射線教育を行いました。石川先生からは，放射線の種類や性質，放射線の利用，放射線との向き合い方などについて，実験を交えて分かりやすく，そして面白くお話しいただきました。

放射線は私たちの身の回りに日常的に存在しており，放射線を受ける量をゼロにすることはできません。空気や食べ物などにも常に放射性物質が存在していますし，病院では放射線が検査や治療に利用されています。その他，放射線は工業分野では製品開発などに利用されたり，農業分野では品種改良などに利用されたりしています。今後も生徒が放射線への理解を確かなものとし，放射線との向き合い方を考えていけるようにしていきたいと思います。

基盤となる学力の向上にむけて

１２月末から週１回，「朝日新聞のコラム『天声人語』を読んで２００字作文を書く」という課題に全校生が取り組んでいます。その課題とは，例えば次のようなものです。

☆　「タピオカ入りミルクティー」が日本で流行した要因について，若者の視点から分析し，考えたことを書きましょう。

コラムを読むことと，自分の考えを書くことが短時間で，しかも合わせてできる一石二鳥の学習です。「継続は力なり」の言葉のとおり，生徒の世界観を広げるとともに，学びの基盤となる読む力・書く力を身に付けさせることをねらっています。生徒が書いた作文には簡単なコメントを付して返却していますので，ご家庭でも話題にしてみてください。

また，放課後の１５分間を使って，「ENGLISH トレーニング」「学習コンテスト」（国社数理英）を実施しています。これらは，２学期までの学習内容の確かな習得と活用を図ることをねらいとしています。このような取組を授業や家庭学習ともつなげることで，一人一人の学力向上に結び付けていきたいと思います。

読書で育みたい力

全校生を対象としたアンケート調査の結果，およそ３割の生徒は「平日学校以外では読書をしない」，およそ８割の生徒は「新聞を全く読まない」と回答しています。

一方，「平日家でゲームをする時間，メールやインターネットをする時間」は，平均で約２時間となっています。また，「ゲームやスマホ等の使用に際して，家の人と約束を決めていない」生徒は，約５割にのぼります。さらには，「家で計画を立てて勉強していない」生徒は，約５割にのぼります。

電車やバスに乗れば，大人も子供もスマホに見入っている。子供のうちからスマホとゲーム漬けになり，降り注ぐような情報にさらされ，万事を情報処理として受けとめる大人や子供から，読解力や表現力が失われていくことが危惧される社会となっています。

読解力とは，他者の意図を正確に読み，それを自分なりに解釈することです。他者の意図を正確に読み取るには，他者の立場や気持ちを理解しないといけません。そのためには，それなりの経験と想像力がいります。経験と想像力を養うには，様々な困難とぶつかって，それらを自分の頭で考えてみることが必要です。これは孤独で面倒でいやな作業です。だからこそ，この作業を手助けする存在が必要であり，それこそが学校であり，家庭であり，友人や知人であり，時には読書だと考えます。

読解力が大事なのは，文章の中に先人たちの経験やそれをもとにした思索の跡が刻印されており，それを知ることが私たちの想像力をかき立て，また鍛えるからです。それを鍛えることによって，大人になって社会に出てからの他者との社交もよりよいものとなるでしょう。

ただそのためには，少々難しいとされる本も読まなければいけません。その程度の難しさに直面し，答えの見えない中を試行錯誤することが，現実の人生における難問を前にして役立つこともあるでしょう。そして，そのためには，先人の残した古典や文学や思想への敬意が必要です。

このような社会だからこそ，学校，家庭，地域社会が連携・協働し，読書を生の経験の基礎的な訓練とみなして，読解力を時間をかけて育むことが必要ではないでしょうか。